

## サーチライト With Pastor Jon 創世記 3 章 パート 3

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コースン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コースン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

創世記 3:15 は非常に大きな意味を持っていて『原福音』と言われ、聖書の中で、初めて福音について述べられている箇所です。罪の直後に最初の福音がやって来る。

どうか、よく見てチェックして下さい。

蛇に対して、蛇だけではなく、サタンと悪霊の全てに「おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。」

(創世記 3:15)

ちょっと待って!! 女の子孫!? それは、女の精子。

つまり、生殖に関与する“女の種”ということですが、それはあり得ない。矛盾します。“種”は常に男と関連付けられるのに、ここでは「女よ、“あなたの種”」となっている。

これはすなわち、超自然的な形で女から生まれる者を指しています。それは誰ですか?

超自然的な受胎、超自然的な方法で女から生まれる者。当然、それはイエスですね。

ガラテヤ 4:4 を見て下さい。キリストについて、“女から生まれた者”“律法の下にある者”と書かれています。キリストが現れて、救い主であり約束された方である女の種が「おまえの頭を踏み砕く」、つまり「女よ、あなたの種がサタンである竜や悪霊の頭を踏み砕く。」しかし、「その同じ竜が彼のかかるとに噛みつく。」彼は噛みつかれる。

ここで十字架の絵が見えて来るのです。私たちの悪のためにキリストが打たれた場所。

イザヤ書 53:7。彼は十字架の上で砕かれました。

しかし、十字架上でキリストは何をしましたか? 彼はサタンの頭を砕いたのです。

だから、サタンは二度とあなたや私に何の力も持ちません。

なぜなら、サタンの力が発揮されるのはただ一つ、“罪” によってのみなのですから。  
あなたの罪が洗い流されたのなら、もはやサタンがあなたを縛り付ける力は何もない。  
サタンがあなたを縛る力は全くありません。  
あなたの罪も私の罪も、既に洗い流されています。

何によって？ 神の小羊の血によって。

ということで、これが最初の福音です。

私が思うに、アダムとエバはこのところで、単に女性が蛇を嫌うということをはるかに超えた意味が含まれていることを理解したでしょう。それは、女の子孫が（面白い表現です）竜の頭を踏み砕くということ。たとえその過程でこの大切な子孫が痛めつけられるとしても…。

### 女にはこう仰せられた。

「わたしは、あなたのうめきと苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋い慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」（創世記 3:16）

あなたはたくさん子供を産むが、それには大きな痛みと苦痛が伴う。女よ、それはとても困難なことだ。それでも（ここに注目して下さい）あなたは夫を恋い慕う。

それでも彼と共にいることを望み、それでも彼を愛し、彼に合わせ、共に過ごし、自分自身を夫に捧げる。けれど、その婚姻関係はギクシャクし、出産には痛みが伴う。

ここはそういうことです。いいですか？

「彼は、あなたを支配することになる。」というのは、「女よ、あなたは夫に支配される」ということ。

Ⅱテモテ 2:14 で、パウロがその理由を書いています。「アダムは惑わされなかったが、女は惑わされた。」  
女が惑わされたのは、彼女の内側に秘められた“霊的でありたい”という欲望のためです。聞いて下さい。ここが重要な鍵です。

彼女は惑わされました。霊的に高まりたいという思いが強く、霊的でありたいという内なる欲望のために、ニューエイジ的なニセのスピリチュアル話に引っかかってしまったのです。“あなたは死なない” “光を放て” “あなたは神だ”

「もっと霊的に深くなりたいたいという欲望のために誤ってしまった彼女の弱さのゆえに、夫よ、あなたが妻を支配するのだ。」

これが神のことばであり、批評家たちが何と言おうと関係ありません。

これは女が奴隷になるという意味ではなく、妻は夫のそばに立つということで、以前話したように、夫を完全なものにするということです。（創世記 2 章パート 3）

それでも、互いに尊重し合いながら共に祈り合ったり、話し合ったりした後で、最終的な決断は夫に委ねられるべきです。たとえ夫と妻の間で同意できなかったとしても。

男が家の頭であり、女は家庭の心。男は頭、女は心。

共に等しく大事な役割でありながら、互いが担う役割はそれぞれ異なる。

神があの日女に言ったこと、女性であるとは、そういうことです。

また、人に仰せられた。「あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければなら

い。(創世記 3:17)

土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならない。(創世記 3:18)

あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。」(創世記 3:19)

アダムは惑わしに少しも引っかかりませんでした。しかし、そのことによって、彼の罪は更に重くなったのです。

女性の皆さん、あなたは家の心で、夫を恋い慕いますが、夫はあなたを支配します。

あなたには子供が与えられますが、それさえも痛みが伴う。

男性の皆さん、これまでのように木陰でくつろぐ日々はもうありません。

もはやちりに帰る日まで、顔に汗を流して働かなければならない。しかも、土地は簡単には産出しないので、額に汗して地を耕し、一生懸命働かなければなりません。

これが、結婚生活の基盤にある根本的なジレンマで、現在でもそうです。

神は「男よ、あなたは顔に汗を流してひたすら働き続けるのだ。それが呪いの結果だ。」と言いました。

ところで…これは罰ではなく保護なのですよ。

今、男は罪人となり、“怠惰な手は悪魔の手伝いをするようになる”(何もしないで怠けていると悪事に走る)

「だからアダム、あなたを常に忙しくさせておかなければならない。もし自由な時間があるとそれを持って余して、あなたは何をするか分からないから。」

世の中には独力で非常に成功した人たちがいますが、私が見た限りでは大抵の場合、自分だけの独立した巨額の富があつて仕事をしていない男性は、何らかの大問題を起こしています。私たちは働かなければなりません。

男が時間を持って余してブラブラしていると、チャールズ皇太子を見て下さい、何となくテニスをしてお茶を飲むくらいのことでは健康的とは言えないでしょう。

色んな問題が起こりますよ。それは賢いことではありません。

「アダム、わたしはあなたの内側を知っている。だから、あなたが絶えずとてとても忙しくし続けていることは、あなたのためなんだよ。」

皆さん、これがジレンマなのです。

聖書によると、妻は夫を恋い慕う。これは単に性的なことに限らず、全てにおいて夫を求めるという意味もあります。妻は夫を求める。

けれども夫は外に出て、仕事、仕事、仕事、働き続けなければならない。

心当たりがあるでしょう？

中には「そうであつて欲しい」と言う妻がいるかもしれませんが。

しかし、これが本当に解決し難い問題なのです。

妻は思います。「夫ももっとゆっくりすればいいのに…」「ただコーヒーを飲みながら、ビスケットを食べながら一緒に散歩したいのに。紅葉を見たりして…」

「どうして彼はしようとししないの?」「何なの? 彼は…?」

女性は多くの場合、価値ある有意義な時間や会話の時間を求めます。

「どうして彼は聞いてくれないの?」「もっと色々尋ねてくれたらいいのに。」

「なぜ私をもっと見てくれないの?」「どうして私をもっと知ろうとしないの?」

「結婚してもう何年にもなるのに、彼は私のことを何も知らない!」

一方で、夫は仕事を二つも三つも掛け持ちしている。なぜですか?

夫は言います。「だって、私には責任がある。妻や家族を愛するとは養うことだ。

ちゃんと養わなければならないから、私は外に出て、妻や子供に不自由な思いをさせないようにできることは何でもする!」

ここで問題が生じるのです。

妻はただコーヒーを飲みながら話がしたい。しかし夫は仕事をしなければ。家族を養うために、将来のために、全てが上手くいくように…。

これは今の時代でも、多くの夫婦にとって、明らかにジレンマです。

妻は話したい。夫は仕事。妻は楽しみたい。夫はじっとしてられず外に出て掴み取る。

これはジレンマ、呪いの一部で、そう定められたことなのです。

さて、夫を変えるために色んなセミナーに行ったり、多くの講義を受けたりすることを望んでいるとしたら、だから今はジョン・グレイのセミナーが流行るのだけど、そんなもの 5 年ともちません。(\* John Gray アメリカの心理学者。ウィーク・エンド・セミナー〈男と女の人間関係〉の創設者)

これから言うことを書き留めて下さい。

“Men Are from Mars, Women Are from Venus” (\*ジョン・グレイ著 邦題; ベスト・パートナーになるために - 男と女が知っておくべき「分かち愛」のルール - 男は火星から、女は金星からやって来た) とかいうものは、5 年以内に燃え尽きます。保証します。

なぜなら、そのコンセプトは理論的ではなく、現実的、楽天的で、色分けしたり、火星、金星、類似するもの何でもあり。人々はこういったものを議論の中に取り入れたがりますが、どれもポイントが完全にずれている。

夫もセミナーに行って学ぶことはできるでしょう。

「ウチの妻は金星からやって来たんだから、私も金星語や金星的表現を学ばなきゃ。」

一生懸命頑張ることはできる。暫くやり続けることもできる。ですから妻である皆さん、夫の努力を認めて A 評価をあげて下さい。でもそれは、夫の本来の姿ではありません。

「ジョン、夫婦に対して、それは全然励ましになってないけど…」

だけど実際は励みになっているのです。

夫と妻が、“呪い” のもたらしたものが、何であるか、そしてそれがどのように影響するかを理解したら、もう二度とお互いを変えようとはしないでしょ。

その代わりに、互いへの期待度を下げようになります。期待度を上げずに下げる。

以前も話したように、あなたの隣にいるその男性は何か欠けています。

あばら骨が 1 本取られて、完全ではないのです。それだけではなく更なる問題発生で、彼は呪われてしまった。彼は土地を耕して糧を得ることを余儀なくされました。

しかも地にはいばらが生え、色々な問題—ジレンマ、困難、苦勞、重労働があります。

男性はこれらの困難を排して前進していくという志向を持っていますが、対して女性には全く異なる意図がある。

あなたが夫に対する期待度を下げるなら、「“夫” という人が分かった」と言うでしょう。

「じゃあ、私の必要は誰が満たしてくれるの？」

そうです。最後のアダム。あばら骨を失っていない人、罪が全くない方、イエス・キリスト。彼があなたの要求に応じてくれます。それで、もう夫を作り変える必要がなくなり、夫に優しくできるようになる。

妻は気付くのです。何か欠けていて呪われている人、それが夫なんだと。

人生は短くて、私たちはもうすぐここからいなくなります。

その間にも、「主よ、私はもっとあなたに近付きたい。いつも私と共にいて下さい。一緒に紅葉を見て下さい。私の気持ちを分かって下さい。夫も分かるように努力してくれますが…私が望むようにしてくれているかは、どうだか…。」夫への期待度を下げましょう。

夫は夫でこんな風に気付きます。「妻はどうやら…私と一緒にいたいらしい…」

そういうことです。

「妻は、私をもっと深く考えるように、もっとたくさん会話するように諦めずに働きかけている。それが彼女の望みだということ、女とはそういうものなんだということにやっと気付いた。」

そして更に分かったのは、私にできる最高のことは、妻と子供たちに「私たちを絶対に失望させない方、何も欠けたところのない方ととても深く関わり合うことによって、君たちも、私が得ているような大きな満足を得ることができるんだよ。」と伝えること。

パウロは I コリント 7 章で言っています。

**兄弟たちよ。私は次のことを言いたいのです。時は縮まっています。**

**今からは、妻のある者は妻のない者のようにしていなさい。(I コリント 7:29)**

何ですって？ そうです。人生は短い。時間はない。

だから常に御国を思い、主に目を留め続け、永遠を心の中心に置き続けましょう。

そうすることで、イエスの愛があなたから溢れ出て、良き夫、良き妻になれるのです。

そうしたら、二人の時間は甘くて豊かなものになり、互いの会話はもっと自由に弾むでしょう。神のことに従ったなら、驚くことが起きます。

**神の国とその義とをまず第一に求めなさい。**

**そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。(マタイ 6:33)**

素晴らしい！

もちろんジレンマはあるでしょう。そういうものなのです。

男性の皆さん！ どうか、絶望しないで！ 諦めないで下さい。

なぜなら予想もしない苦痛や流れ落ちる汗などは、まさに我らのヒーロー、我らの主によって取り去られたのだから。

いばらの冠をかぶらされた主。血の汗がその顔を流れ落ちました。

これは私にとって、「主は私が抱えているジレンマを知っていて、主ご自身がその呪いを引き受けて下さった。その時、この呪われた地で背負っているプレッシャーや重荷や責任、全ての呪いから、私は本当の意味

で自由になった。」ということ。

「主よ、あなたは苦痛も汗も知っておられます。だから私もあなたと共に歩まなければなりません。」  
それで、イエス・キリストを心から愛する男と女が一緒になると、結婚生活は上手く機能し大変豊かなものになります。特に二人が天の御国を大事に思い、他の何よりも主と共に歩むことに満足を見出すなら、プレッシャーは取り除かれ、肩の荷が下りるのを感じるでしょう。

「主は我らの主」「御国が我らのゴール」と二人が言う時、いさかいは止み、アンダーラインが引かれた本は寝室からなくなるでしょう。

夫が読むのを期待して、また、妻が見ることを期待して、彼女がそうしてくれたらいいのに…と引いたアンダーライン。

“Total Woman”（\*邦題；トータル・ウーマン 幸せな結婚を築く秘訣）という古い本。

この本はベストセラーで、1970年代、最高に売れたクリスチャンブックでした。

“トータル・ウーマン”知らない人もいるかと思いますが、その当時は夫たちがみな、妻に贈ったものでしたよ。

著者マラベル・モーガン（Marabel Morgan）は本の中でこう言いました。

「妻はその身をラップで包んで夫を迎えなさい。」

夫は弁護士。彼らの結婚生活は寂しいもので、もがき苦しみ、破綻していました。

彼女はクリスチャンである自分がどのようにして結婚生活を取り戻したかについて、赤裸々に書いたのです。討論会、セミナー、授業、修養会…非常に大勢の人々がこの本を購入しました。夫を取り戻すためにクリスチャンの女性が行ったこと、「これが鍵よ！」と言ったラップ…

なぜこの話を持ち出したかという、マラベルは離婚したからです。

私は何も面白がって、バカにして言っているのではありません。ただ悲しいのです。

彼女は“Totaled（完全にボロボロの）Woman”になってしまったのですから。

つづく

ですから、キリストにあって励ましがあ、愛の慰めがあ、御霊の交わりがあ、愛情とあわれみがあるなら、あなたがたは同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、思いを一つにして、私の喜びを満たして下さい。（ピリピ 2:1 - 2 新改訳 2017）